

諫早市文化財調査報告書第8集

大野台遺跡発掘調査報告書

昭和62年9月

諫早市教育委員会

## 例　　言

1. この調査は、諫早農業協同組合施工のカントリーエレベーター建設に伴う発掘調査報告書である。
2. 調査は、諫早農業協同組合の依頼を受けて、諫早市教育委員会社会教育課が実施した。
3. 調査に関する写真・図面等は、諫早市教育委員会社会教育課が保管している。
4. 報告書に使用している方位は磁北を示し、レベルは標高を示している。
5. 発掘調査に際しては、諫早農業協同組合及び本野町町内会長の全般的な協力を得た。



## 本文目次

1. 遺跡の立地及び環境	1
2. 遺跡の調査及び概要	1
1. 遺跡の調査	1
2. 遺跡の概要	3
3. まとめ	4

## 挿図目次

第1図 遺跡分布図	5
第2図 遺跡測量図及びグリッド配置図	6
第3図 土層実測図	7

## 図版目次

図版1 遺跡遠景（北より）	8
遺跡近景（北より）	8
図版2 C-5 （西より）	9
C-5 （南より）	9
図版3 F-5 （西より）	10
H-1 （西より）	10
図版4 H-5 （西より）	11
H-5 （南より）	11
図版5 H-8 （西より）	12
H-8 （南より）	12



## 1. 遺跡の立地及び環境

大野台遺跡は、諫早市本野町1096番地及び1097番地に所在し、標高約188mを測る。

1075mの経ヶ岳を主峰とする寄生火山の多良山塊は、標高300m前後まで急峻であり、以下なだらかな傾斜を示しながら丘陵地を形成し、海中に没する。

遺跡は、丘陵の背の部分に立地し、北面している箇所が土層の保存状態が良好と判断された。

特に、長崎県遺跡地図84-29で記載されている該地は、従前より石器等が多く採集され、また近傍にも多数の遺跡が存在することなどから大きな生活跡等の立地が考えられている。

## 2. 遺跡の調査及び概要

### 1. 遺跡の調査

調査区の設定は、該地の測量線を中心に $5 \times 5$ mのグリッドを設定し、東西方向をA・B・C・D、南北方向を1・2・3・4と呼称した。

また、発掘区は各グリッドの西側とした。即ち発掘区の最小単位は $2.5 \times 5$ mである。

以下、日誌をもとに概要を記す。

9月 9日 測量線を中心に $5 \times 5$ mのグリッドを設定。

H-1, 4, 8の表土はぎを行う。H-1の北隅に多良の火山泥流で、俗にドンク盤と呼ばれる土層が存在。

10日 H-1 ドンク盤の調査。遺物の出土はみられず。

H-4 ドンク盤の上に茶褐色粘質土が存在。この層はレンズ

状に堆積している模様で、北隅にはドング盤が出ている。

遺物の出土なし。

H-8 表土直下がドング盤。包含層は存在せず。南に2mの深掘部を設定。

F-5 本日より表土はぎ。

11日 C-5・7を設定。

H-1 全面にドング盤を検出、調査を終了する。

H-4 茶褐色粘質土の精査。ドング盤との接合面でchipを検出。

H-8 深掘部の精査。

F-5 ドング盤に近づく様相でクサリ跡が出てくる。

F-8 本日より表土はぎ。

13日 H-8, F-5のレベル取り。

H-4 茶褐色粘質土の精査。ドング盤の切れ込み激しく、上層が厚いようである。

H-8 写真撮影後、断面図取り。

F-5 写真撮影後、断面図取り。

C-5 本日より表土はぎ。表土層の下は茶褐色粘質土が存在

14日 C-5 茶褐色粘質土の精査。地表より約30cm位でやや粘性が強まる。

C-7 本日より表土はぎ。茶褐色粘質土の精査。

H-1 写真撮影後、断面図取り。

H-4 茶褐色粘質土の精査。

F-8 包含層の存在が認められず。ドング盤まで精査して終了。

16日 C-5・7 茶褐色粘質土の精査。

H-5 茶褐色粘質土の下位が単純にドンク盤になる様相は認め難く、Sub-Trenchを入れて精査することとする。

17日 C-5・7 茶褐色粘質土の精査。西端に1mの深掘部を設定し、堀り下げる。

H-5 茶褐色粘質土がドンク盤の下へ入り込む様相は、ドーナツ状遺構と判明。その後、西端にSub-Trenchの深掘部を設定し精査する。

18日 C-5・7, H-5の写真撮影を済ませ、土層断面の実測を行う。本日を以て調査を終了する。

## 2. 遺跡の概要

第1節で記したように、元来の遺物包含層と見られる茶褐色粘質土層の存在が皆無、或いは僅かであり、包含層は存在しなかった。従前は多くの遺物の採集がなされていることからすれば、耕作等により包含層が消滅していると考えられる。

次に、各グリッドの土層の説明をする。

### C-5 0 表土

- 1 淡黒～茶褐色粘質土（縦にクラックが走る）
- 2 茶褐色粘質土
- 3 ドンク盤

### C-7 0 表土

- 1 茶褐色粘質土
- 2 茶褐色クサリ疊層
- 3 2より疊が大きくなる

### F-5 0 表土

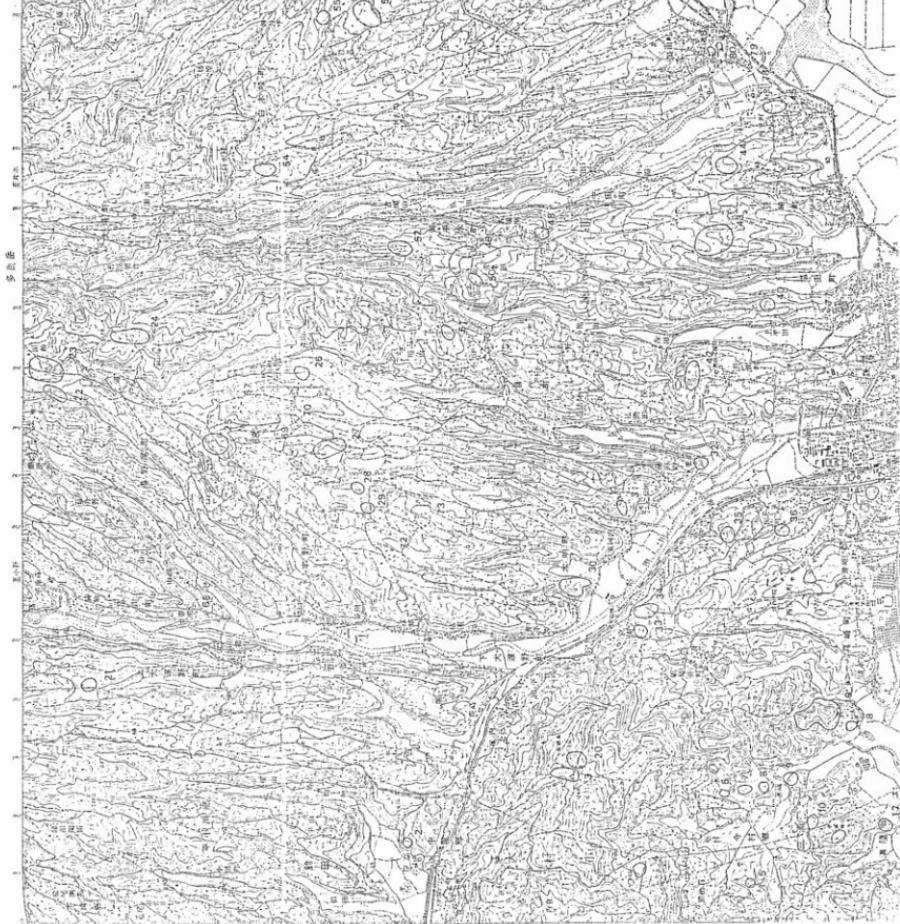
- 1 茶褐色粘質土（火山灰が土壤化したもので、粘性が強く炭化

物を稀に含んでいる。)

- 2 淡黒茶褐色粘質土
  - 3 ドンク盤
- H-1 0 表土
- 1 ドンク盤
- H-5 0 表土
- 1 茶褐色粘質土
  - 2 淡茶褐色粘質土
  - 3 ドンク盤
- H-8 0 表土
- 1 ドンク盤

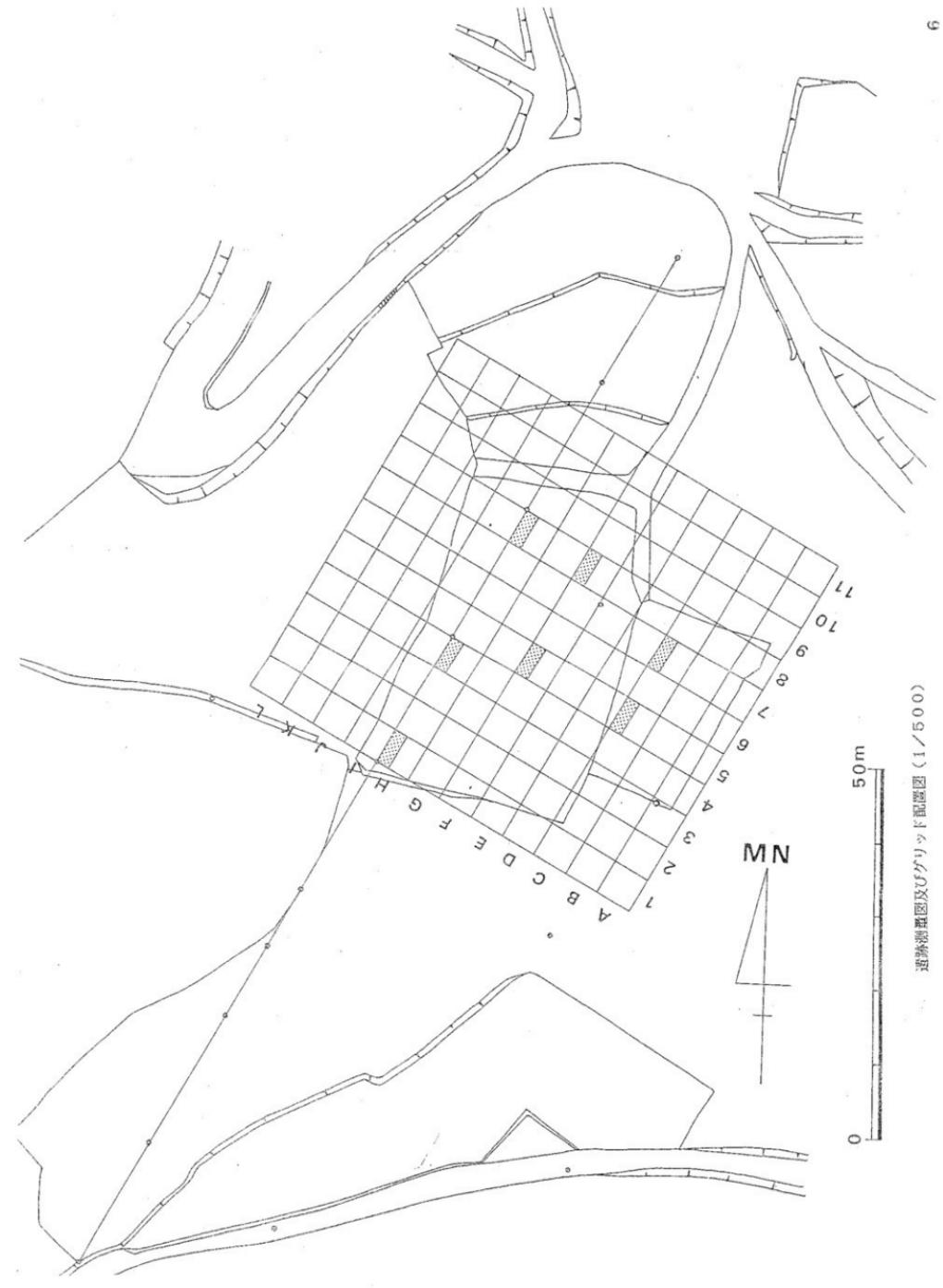
### 3. まとめ

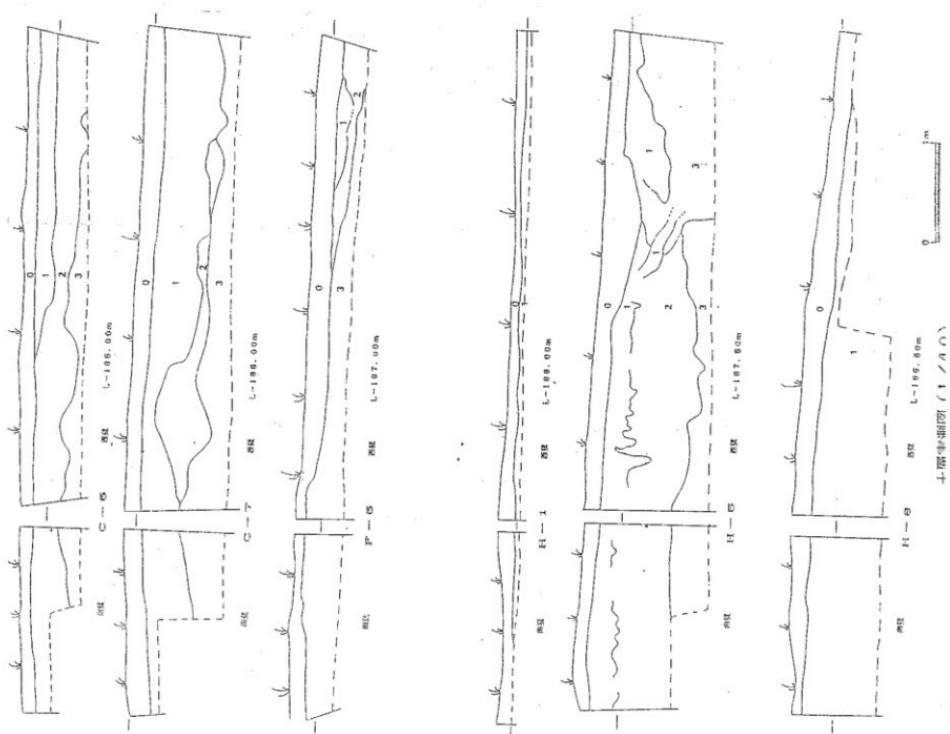
前章において述べたように、遺跡の存在はあったものの、包含層の存在は認め難い。



圖分布

道路網図及びグリッド配置図(1/500)





## 図版

図版 1



遺跡遠景（北より）

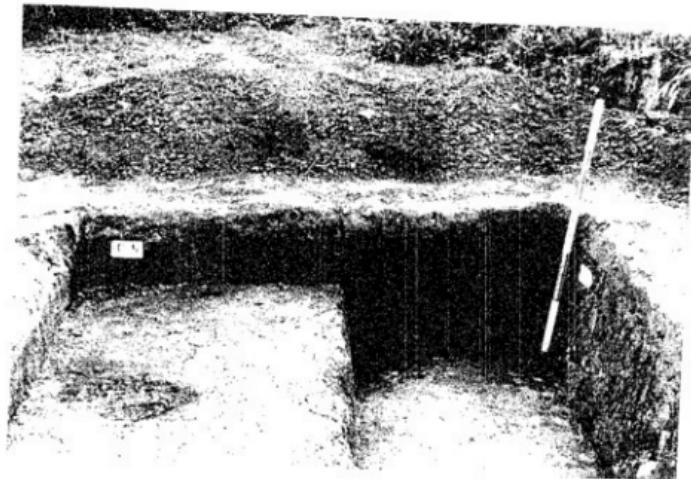


遺跡近景（北より）

図版2



C-5 (西壁)

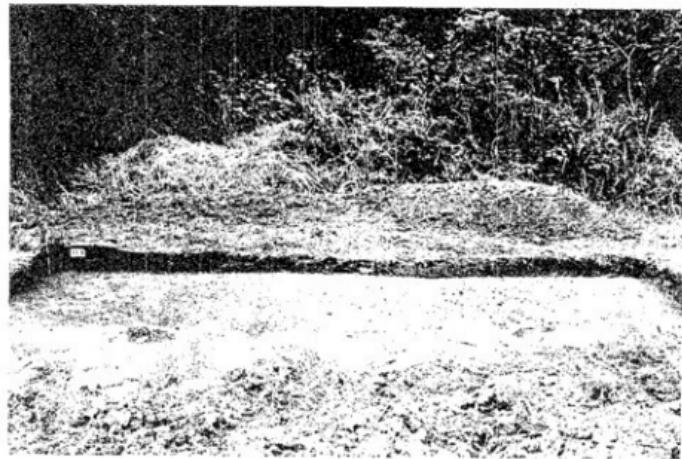


C-5 (南壁)

圖版 3

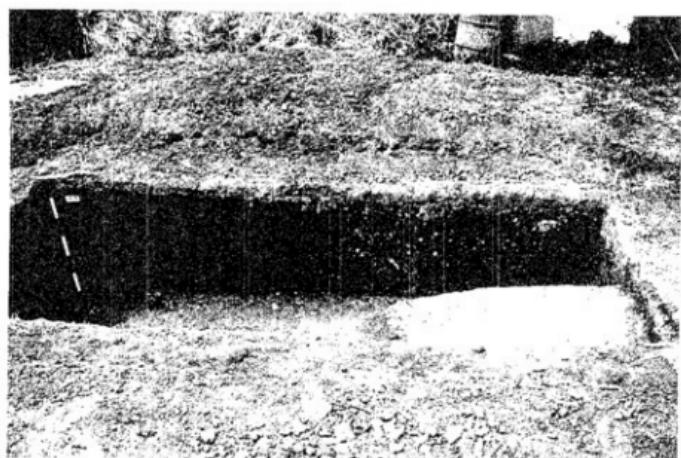


F - 5 (西 墓)

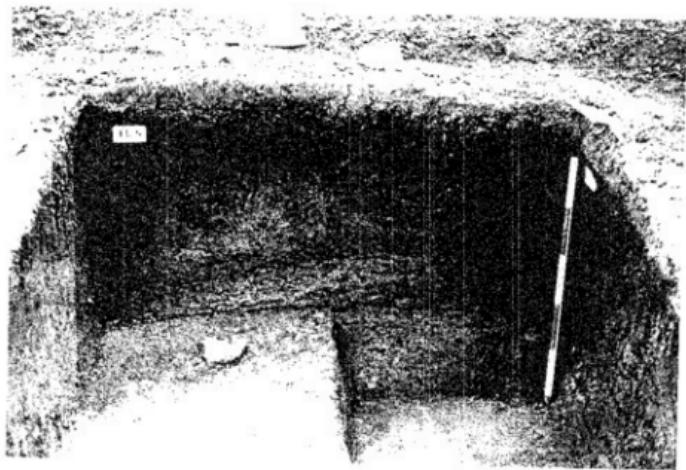


H - 1 (西 墓)

図版 4

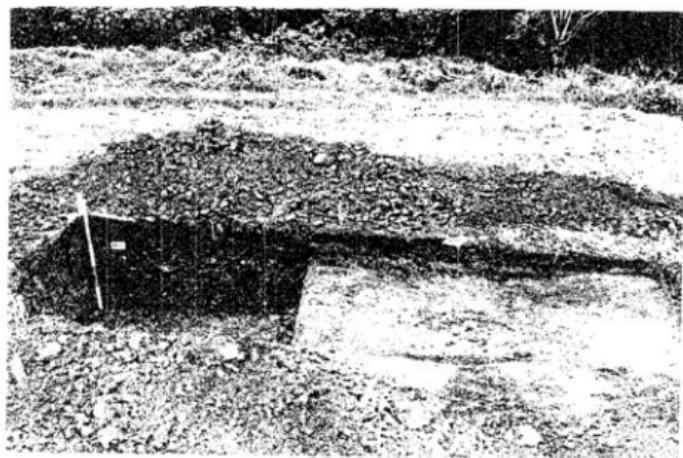


H-5 (西壁)

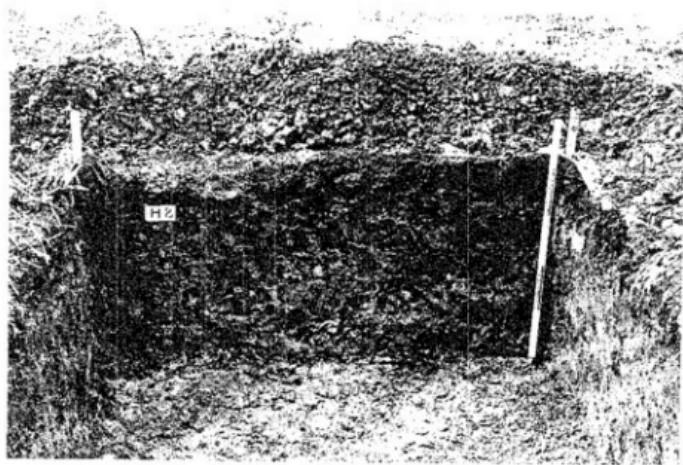


H-5 (南壁)

図版 5



H - 8 (西 壁)



H - 8 (南 壁)